

平成30年度学力向上推進（ふくぎ じんぶなープラン）の取り組み報告

城岳こども園の自己評価

教育保育目標

学ぶ力・よく見よく考える子 心の力・あきらめない子、正しいことに向かって協力する子体の力・よく遊び、よく活動する子

教育・保育方針

- ・子ども一人ひとりの人格を尊重し、さらに最善の利益を第一に考え教育保育を行う。
- ・こども本来の持てる力を大切に、生活や様々な遊びや活動を通して生きる力の基礎を引き出し、心に寄り添って育てる。

自己評価 4 充実している 3 おおむね充実している 2 あまり充実していない 1 充実していない

	具体的取組	評価	考 察
学級経営 1 園児一人一人が 大切にされ、良さを 可能性を認め合う	○一人一人を大切に学級経営の充実が図れた。	3.1	一人一人の心に寄り添い、個性に合わせた対応を行った。発表の場、クラス全体での話し合いを持つことでそれぞれが自己発揮することが出来た。「気になる子」への支援をより丁寧に行うよう努めていく。
	○教師や友達と関わり、認め合う学級経営が図れた。	2.8	クラス経営を2人担任とすることで、状況に応じた細かな対応が出来た。様々な遊びを通して、互いの思いを出しあえるようその都度話し合う場を設ける事で、友達に優しく出来るようになる。
2 「確かな学力」の向上	○遊びを通して主体的な活動を促す環境構成や援助の工夫をした。	2.5	「遊びを通して」「主体的」の捉え方に迷い、時間がかかった。子ども一人ひとりが好きな遊びを見つけ、楽しめるよう必要としている物を準備し、各コーナーを充実させる。
	○言葉による伝え合いや文字に関する興味関心を育む援助の工夫ができた。	3.1	・50音表を見える位置に掲示したり、ひらがなコーナーを設ける事で、見たり書いたり文字に触れられる環境を整えた。また、手紙交換がブームになると、ポストを設置するなど遊びを展開させて楽しめるようにしている。 ・気持ちを代弁することで、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを理解できるよう丁寧な対応を心掛け言葉の大切さを知らせている。
	○身近な人に親しみ、かかわりを深め愛情や信頼関係を育む援助の工夫ができた。	2.9	園行事等、地域の方に足を運んでもらう事で、子ども達も自然に親しみを持ち、自ら挨拶を行うなど、交流を楽しんでいる。地域の保育園との交流を増やす事で、地域の子どもの関りを深める。
	○健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身につくような援助の工夫ができた	3	長期休みなど、その時期にあわせ絵本や紙芝居を通して生活リズムや安全についての注意喚起を行い、家庭でも話し合える場を設けて頂くよう家庭と連携しながら、身につくよう務める。
3 基本的な生活習慣の形成	○「食べて、動いて、よく寝よう」の取組の工夫をした。	3.1	・ラジオ体操、マラソンを日課とすることで、体力向上に繋がっている。 ・園庭やホールを活用し沢山体を動かす事で、食べる意欲や楽しさに繋げる。
	○家庭と連携し、望ましい生活リズムの確立を図った。	2.5	生活習慣アンケートを年2回行うことで、園児の実態把握をするとともに結果を家庭へ知らせ、生活改善を図る。課題のある家庭においては、職員間で情報共有しながら、送迎時などを利用し家庭と連携を取り、課題解決に努める。
	○規範意識やマナーを身につける援助の工夫ができた。	2.8	「さん」つけ呼称を意識付けていく事で、相手を尊重する気持ちが培われ、汚い言葉で言い合う姿がなかった。5年生によるこども園清掃の姿から「自分もやってみたい」という気持ちが持てるようになり、身の回りのせいり整頓へ繋げることが出来るようになる。
	○「食」への関心を高める保育の工夫を図った。	2.8	・オクラ、ジャガイモなど季節に合わせた栽培体験をすることで楽しさや、喜びを味わうことが出来た。また、毎日の献立読み合わせや、栄養バランスを学ぶ三大食品群をクイズにしたり食品への関心を高めた。 ・自演調理を実現し、温かい食事提供を目指す。
4 学力向上マネジメント	○計画的な園内研修を実施し、保育に生かすことが出来た。	3.2	月に1度行っている研修ではあるが、より学びを深める為に計画を具体的にしてい事がく必要。話し合うことで職員の連携へと繋がり、日々の保育・教育に活かす事が出来るようになる。
	○PDCAサイクルを活用し、日々の保育改善と安全管理を行った。	2.5	日々の振り返り・反省を基に週案作成を行保育改善を図ることが出来た。月に一度の避難訓練実施、安全点検を行うと共に、日々の活動の中で子ども達への注意喚起を行うも、木から落ちてしまうケガがあったので安全管理を徹底していく。
	○保育記録をもとに保育カンファレンスを行う等、幼児理解を深めることができた。	2.4	職員全員で子ども姿を情報共有することで一貫した援助ができるようになる。また週に1回の朝礼にて情報の共有を図り、不参加の職員には記録簿を作成したが観覧が不十分だった。
	○保育者同士による保育参観を行い、保育の質の向上が図られた。	1.5	保育士同士の参観を行う時間を設ける事が出来なかった。その都度、園長、主幹をはじめ職員全員で気づいたことを話し合ってはきたが、積極的に意見交換を行い保育の質向上を図っていく。
総合評価	14項目の平均：2.7	改善課題と	・教育・保育アンケートを実施し、アンケート結果や意見等から一つ一つ改善を図り、園全体の質向上を目指した。遊びを通して学ぶ環境や知的教育への展開が十分に出来ていなかった。次年度は分野ごとに具体的な研修計画をたてPDCAを生かした教育・保育実践が行えるようにしたい。シフト制勤務で全員揃っての話し合いの時間確保が難しい為、細かな情報を確実に共有する事が課題。

平成30年4月から那覇市長より、社会福祉法人ポプラ福祉会が指定を受け、公立幼稚園から公私連携那覇市認定こども園、城岳こども園としてスタートし一年が経過しました。保育園から公私連携こども園を立ち上げるにあたり、勝手が違い初めてのことも多く私も職員も戸惑うこともありましたが、保護者の皆様、地域の皆様方には、ご協力ご理解を賜り、那覇市こども政策課の指導の下、運営も軌道に乗せ大きな事故やけがもなく無事新しい年を迎えることができました。有難うございます。これからも、職員一同、研修を積んでいき擁護の充実とともに、教育的な配慮、子どもの主体性の促しについてなど要領の内容など那覇市こどもみらい部の指導を仰ぎ「幼児の終わりまでに育って欲しい姿」を園の課程に盛り込み、目標とした関わりを心がけ隣接する小学校との滑らかな接続、保幼小連携の取り組みを継続し強化して行きます。一年目の公私連携こども園として、職員間で厳しい自己評価となっておりますが目標に少し近づけたと思います。

これまで以上に認定こども園として、保護者の皆様、行政、城岳小学校、地域、ポプラ福祉会と連携を取りながら「全ての子どもの最善の利益」を一番に考えて行きたいと思っております。

